

●避難が困難な地域

- ・桑名市の既成市街地等のなかでおおむね2km以内に市街地外の安全な場所（市街化調整区域の農地や広い場所）に避難できない避難困難地域は特にありません。
- ・桑名市では避難所、一次避難地を指定し、避難場所マップを作成するなど、防災対策を行っています。
- ・しかしながら、一部地域において一次避難地としてのオープンスペースの指定がなく避難所（小中学校や公民館）のみの指定となっており、一次避難場所となるオープンスペースの適正な配置が必要となります。

④景観系統

●水の景観

- ・木曾三川は面積が広大であり、「水郷県立自然公園」にも指定されるなど、桑名市を代表する水辺の景観となっています。
- ・木曾三川、員弁川、多度川、肱江川などは市域を縦横に通る河川で、地域をつなぐ軸となる緑（水辺）として重要です。
- ・市街地を流れる小河川も、市街地の水辺の景観を演出し、良好な景観を創る要素として評価できます。



揖斐川河口

●都市の骨格となる緑の景観

- ・多度山をはじめとする養老山系は、都市の骨格を形成するまとまった桑名市を代表する緑の景観として保全していくことが必要です。
- ・市域南端の丘陵地や市の西部から北部に広がる丘陵地は、市域を縁取る緑の景観として保全する必要があります。
- ・市街地に残る丘陵地は、宅地開発等によって残された市街地を縁取る緑（斜面緑地）の景観として保全する必要があります。

●優れた景観の視点場・眺望点

- ・多度山は、多度大社周辺の市街地の背景として豊かな自然景観を創出しています。この多度山を良好なアングルで眺めることのできる視点場として、多度町総合支所がある高台や木曾三川等に架かる橋梁などがあります。
- ・一方、多度山は御岳山から伊勢湾までを眺望できる視点場となっています。



多度山山頂からの眺望

- ・走井山公園は矢田城跡と伝わる小高い丘にある公園で、桜の名所でもあります。勸学寺に隣接して公園があり、桑名市の海まで見渡せる視点場となる公園です。
- ・高塚山古墳の丘陵地からの市域北東部の眺望はすばらしく、伊勢大橋や名古屋駅周辺のビル等が見える視点場となっています。

●シンボル・ランドマークとなる緑

- ・九華公園（桑名城址）は、市街地の身近にあるまとまった緑であり、春にはさくら祭りが行われるなど、シンボルとなる公園です。
- ・市街地を縁取る丘陵地等が形成するスカイラインは、桑名市を特徴付ける重要な景観であり、市街地内どこにいても緑が感じられるランドマークにもなっています。
- ・長島地域は水田に囲まれていることから、こんもりとまとまった社寺林がランドマークになっています。
- ・市域には天然記念物に指定されている古木（巨木）として、芳ヶ崎のクロガネモチ、太夫の大樟、照源寺の夫婦松、長島城址の大松があります。歴史文化の象徴となるこれらの古木はランドマークとなります。



芳ヶ崎のクロガネモチ

●歴史的・文化的な雰囲気醸し出す景観

- ・東海道、美濃街道、濃州道（員弁街道）等の沿道は、桑名市の歴史・文化や風土を醸し出す空間です。
- ・多度大社とその周辺は歴史的な雰囲気を感じられる空間です。
- ・長島地域の水屋等の残る輪中地帯の景観は特有のものであり、この地域の歴史風土を醸し出しています。
- ・市街地の樹林地のひとつである高塚山古墳は、桑名、四日市地方のなかで、最も大きな前方後円墳です。現在は竹やぶになっているところもありますが、桑名市の歴史的産物であり、歴史風土を感じられる樹林地です。

●都市景観

- ・都市計画道路の整備においては街路樹の整備も行われています。街路樹は騒音や災害等を軽減させる機能とともに、都市の景観要素としても重要です。さらに街路樹は地域の文化性やアイデンティティなどの地域の付加価値を高める効果もあり、今後も樹種等に配慮しながら、整備・維持管理をしていく必要があります。
- ・市街地を流れる水路は、水辺空間として安らぎを与えており、都市の水辺の景観要素として保全し、また親しめる水辺空間としての創出を図ることが必要です。

●田園風景

- ・木曾三川、員弁川、多度川、肱江川流域に広がる田園風景は、水と緑の調和を感じさせる景観を演出しており、維持保全していくことが必要です。